

東日本大震災救援募金にご協力いただきました皆様へ

2011年3月11日に発生した東日本大震災で朝日新聞厚生文化事業団が朝日新聞社とともに呼びかけた救援募金には1年余りで約9万件、35億円を超えるご寄付が寄せられました。皆様のあたたかいご協力にお礼を申し上げますとともに、私どもが行った救援事業などの内容についてご報告させていただきます。

皆様からのご寄付のうち、「義援金」として寄託された分や用途についてのご意思が確認できなかった分については、宮城、岩手、福島各県と各県の共同募金会、県市区町村の社会福祉協議会、日本赤十字社に送金し、被災者への義援金などに使わせていただきました。

「当事業団に一任する」というご意思が確認できた分については、両親を失った子どもたちへの「こども応援金」をはじめ、身近な人を亡くした子どもの喪失体験に向き合う「グリーフ（悲嘆）ケア」、音楽家らが被災地の施設を訪問する「被災地ビジット」、岩手県の陸前高田市で高齢者が孤立しないよう支援する「高齢者在宅ケア」、「被災地の障害のある人の自立生活支援」などの救援事業に充てさせていただき、現在も継続して事業の実施を進めております。

当事業団からの送金や救援事業の詳細については、同封のパンフレット「共に生きる豊かな福祉社会のために」をご一読ください。

私どもは震災事業のほかにも、「子ども」「障害のある人」「高齢者」を事業の柱として、「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」「自閉症カンファレンス」「高齢者への暴力防止プロジェクト助成」など、さまざまな福祉活動に取り組んでおります。

こうした活動を進めるための資金は皆様のご寄付によるものです。震災を通じたご縁を機に、震災以外の私どもの福祉事業についてもご理解いただければ幸いです。ご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

2012年10月

社会福祉法人
朝日新聞厚生文化事業団
理事長 池内 文雄